

第26回 先進医療専門家会議 議事次第

日時:平成20年1月9日午後3時～
会場:厚生労働省専用第18～20会議室

議 題

- 1 先進医療の届出状況（11月受付分）について
- 2 先進医療の届出状況（12月受付分）について
- 3 先進医療の保険導入等について
- 4 その他

先進医療の新規届出技術(11月受付分)について

先 - 1
20. 1. 9

整理番号	先進医療名	適応症	先進医療費用※ (自己負担)	保険外併用療養費※ (保険給付)	受付日
98	変形性顎関節症に対する矯正歯科治療	顎関節症のうち、顎関節円板の転位や穿孔が認められ、その結果、下顎頭に著しい下顎頭軟骨層の破壊および骨変形を伴う変形性顎関節症。臨床症状としては、顎関節部およびその周辺組織の自発性および運動性疼痛と自力開口量30mm以下の開口障害を主症状とし、これに関連した偏頭痛、耳鳴り、難聴、眩暈、肩凝りなどの随伴症状が認められるもの。	11万7千円 (3回)	6万9千円	H19.11.8
99	Real Time PCR を用いたEBウイルス感染症の迅速診断	EBウイルス感染症	1万2千円 (1回)	858万円	H19.11.8
100	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術 (適応症拡大)	尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、精巣癌の転移性後腹膜リンパ節腫瘍、泌尿器癌の転移性骨盤リンパ節腫瘍、水腎症	6万4千円 (1回)	87万2千円	H19.11.12
101	腹腔鏡下腎盂・尿管切石術	嵌頓結石でPNL、TULでは摘出が困難と考えられる症例	45万9千円 (1回)	33万2千円	H19.10.28
102	リアルタイムPCR法を用いた歯周病細菌の定量による歯周病診断	歯周病細菌の感染が疑われる歯周炎および歯肉炎	2万円 (2回)	2万2千円	H19.11.15
103	抗菌薬を用いた全顎スケーリング・ルートプレーニング法	慢性歯周炎(中等度以上、全身疾患の問題で歯周外科処置が適応できない症例)、侵襲性歯周炎	6万5千円 (1回)	3万4千円	H19.11.15
104	体腔鏡下膀胱内手術	両側または高度膀胱尿管逆流症例、膀胱憩室、巨大尿管症などの下部尿管、膀胱等の疾患	41万7千円	25万1千円	H19.11.15

※ 届出医療機関における典型的な症例に要した費用

先進医療として届出のあった新規技術（11月受付分）に対する事前評価結果等について

整理番号	先進医療名	事前評価担当構成員	総評	適応症（審査結果）	その他（事務的対応等）	評価の詳細
98	変形性顎関節症に対する矯正歯科治療	—	—	顎関節症のうち、顎関節円板の転位や穿孔が認められ、その結果、下顎頭に著しい下顎頭軟骨層の破壊および骨変形を伴う変形性顎関節症。臨床症状としては、顎関節部およびその周辺組織の自発性および運動性疼痛と自力開口量30mm以下の開口障害を主症状とし、これに関連した偏頭痛、耳鳴り、難聴、眩暈、肩凝りなどの随伴症状が認められるもの。	返戻（書類不備）	—
99	Real Time PCR を用いたEBウイルス感染症の迅速診断	渡辺清明	適	EBウイルス感染症		別紙1
100	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術（適応症拡大）	吉田英機	適	尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、精巣癌の転移性後腹膜リンパ節腫瘍、泌尿器癌の転移性骨盤リンパ節腫瘍、水腎症		別紙2
101	腹腔鏡下腎盂・尿管切石術	—	—	嵌頓結石でPNL、TULでは摘出が困難と考えられる症例	返戻（書類不備）	—
102	リアルタイムPCR法を用いた歯周病細菌の定量による歯周病診断	—	—	歯周病細菌の感染が疑われる歯周炎および歯肉炎	返戻（書類不備）	—
103	抗菌薬を用いた全顎スケーリング・ルートプレーニング法	—	—	慢性歯周炎（中等度以上、全身疾患の問題で歯周外科処置が適応できない症例）、侵襲性歯周炎	返戻（書類不備）	—
104	体腔鏡下膀胱内手術	—	—	両側または高度膀胱尿管逆流症例、膀胱憩室、巨大尿管症などの下部尿管、膀胱等の疾患	返戻 （薬事法適応外使用）	

②

先進医療の名称	Real Time PCR を用いた EB ウイルス感染症の迅速診断
適応症	
EB ウイルス感染症	
内容	
<p>(先進性) Real Time PCR 法は、ウイルスの DNA 量を数時間以内に定量的に評価する優れた方法で、簡便にして迅速に EB ウイルス感染症を診断することができる。</p> <p>(概要) 臓器移植手術においては、術後に免疫抑制剤を長期間投与する必要があるため、それに伴うウイルス感染症が発症しやすく、早期に対応するためには迅速診断が重要な検査となっている。特にトランスアミナーゼ等の逸脱酵素の上昇が見られる患者においては、移植後の拒絶反応によるものか、ウイルス感染によるものかを一刻も早く診断し、治療対策を開始する必要がある。また、伝染性単核球症や慢性活動性 EB ウイルス感染症、EB ウイルス関連血球貪食症候群などの EB ウイルスの感染によって引き起こされる疾患を早期に診断し適切な処置を行うには、感度が高く迅速な検査法が必要である。</p> <p>本技術は Real Time PCR 法を用い、EB ウイルスの DNA 量を数時間以内に定量的に評価し、EB ウイルス感染症を迅速に診断するものである。</p> <p>(効果) 本技術を用いると、簡便にして迅速に EB ウイルス感染症を診断できるのみならず、定量的な評価が出来るため、治療効果の評価も可能である。</p> <p>(先進医療に係る費用) 約 12,000 円</p>	
実施科	
病態情報解析学講座(中央検査部)、小児外科、移植外科	

先進技術としての適格性

先進医療 の名称	Real Time PCR を用いた EB ウィルス感染症の迅速診断
適応症	<input type="checkbox"/> A. 妥当である。 B. 妥当でない。(理由及び修正案:)
有効性	A. 従来 of 技術を用いるよりも大幅に有効。 <input type="checkbox"/> B. 従来 of 技術を用いるよりもやや有効。 C. 従来 of 技術を用いるのと同程度、又は劣る。
安全性	<input type="checkbox"/> A. 問題なし。(ほとんど副作用、合併症なし) B. あまり問題なし。(軽い副作用、合併症あり) C. 問題あり(重い副作用、合併症が発生することあり)
技術的 成熟度	A. 当該分野を専門とし経験を積んだ医師又は医師の指導下であれば行える。 <input type="checkbox"/> B. 当該分野を専門とし数多く経験を積んだ医師又は医師の指導下であれば行える。 C. 当該分野を専門とし、かなりの経験を積んだ医師を中心とした診療体制をとっていないと行えない。
社会的 妥当性 (社会的倫 理的問題 等)	<input type="checkbox"/> A. 倫理的問題等はない。 B. 倫理的問題等がある。
現時点 での 普及性	A. 罹患率、有病率から勘案して、かなり普及している。 B. 罹患率、有病率から勘案して、ある程度普及している。 <input type="checkbox"/> C. 罹患率、有病率から勘案して、普及していない。
効率性	既に保険導入されている医療技術に比較して、 A. 大幅に効率的。 <input type="checkbox"/> B. やや効率的。 C. 効率性は同程度又は劣る。
将来の保 険収載の 必要性	<input type="checkbox"/> A. 将来的に保険収載を行うことが妥当。 B. 将来的に保険収載を行うべきでない。
総 評	総合判定: <input checked="" type="checkbox"/> 適 ・ 否 コメント:

備考 この用紙は、日本工業規格 A 列 4 番とすること。医療機関名は記入しないこと。

当該技術の医療機関の要件(案)

別紙 1

先進医療名及び適応症: Real Time PCRを用いたEBウイルス感染症の迅速診断	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	<input type="checkbox"/> 要 (内科、小児科、外科、小児外科、又は泌尿器科)・不要
資格	<input type="checkbox"/> 要 (内科専門医、小児科専門医、外科専門医、小児外科専門医、泌尿器科専門医、又は臨床検査専門医)・不要
当該診療科の経験年数	<input type="checkbox"/> 要 (3)年以上 ・ 不要
当該技術の経験年数	<input type="checkbox"/> 要 (1)年以上 ・ 不要
当該技術の経験症例数 注1)	実施者[術者]として(1)例以上 ・ 不要 [それに加え、助手又は術者として()例以上 ・ <input type="checkbox"/> 不要]
その他(上記以外の要件)	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	<input type="checkbox"/> 要 ・ 不要 具体的内容: 常勤医師1名以上
他診療科の医師数 注2)	要 ・ <input type="checkbox"/> 不要 具体的内容:
看護配置	要(対1看護以上)・ <input type="checkbox"/> 不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	<input type="checkbox"/> 要(臨床検査技師)・ 不要
病床数	要 (床以上)・ <input type="checkbox"/> 不要
診療科	<input type="checkbox"/> 要 (内科、小児科、外科、小児外科、又は泌尿器科)・不要
当直体制	要 ()・ <input type="checkbox"/> 不要
緊急手術の実施体制	要 ・ <input type="checkbox"/> 不要
院内検査(24時間実施体制)	<input type="checkbox"/> 要 ・ 不要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	要 ・ <input type="checkbox"/> 不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	<input type="checkbox"/> 要 ・ 不要
倫理委員会による審査体制	要 ・ <input type="checkbox"/> 不要 審議開催の条件:
医療安全管理委員会の設置	<input type="checkbox"/> 要 ・ 不要
医療機関としての当該技術の実施症例数	<input type="checkbox"/> 要(1症例以上) ・ 不要
その他(上記以外の要件、例;遺伝カウンセリングの実施体制が必要 等)	
III. その他の要件	
頻回の実績報告	要 (症例まで又は 月間は、毎月報告)・ <input type="checkbox"/> 不要
その他(上記以外の要件)	

注1) 当該技術の経験症例数について、実施者[術者]としての経験症例を求める場合には、「実施者[術者]として()例以上・不要」の欄に記載すること。

注2) 医師の資格(学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の△科医師が□名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

先進医療の名称	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術
適応症	
尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、精巣癌の転移性後腹膜リンパ節腫瘍、泌尿器癌の転移性骨盤リンパ節腫瘍、水腎症	
内容	
<p>(先進性)</p> <p>対象の臓器がかるうじて取り出せるひとつの小切開創(ミニマム創)から、内視鏡と新開発の器具を用い、手術を行うことにより、1)従来の開放手術と比較して、より低侵襲な手術が可能となり、患者への身体的負担が軽減される(低侵襲)。また、2)腹腔鏡手術と比較し、同等あるいは同等以上の低侵襲性を持ちつつ、低侵襲化に伴って生じる安全への危惧が著しく軽減され(安全性の向上)、3)同じく低侵襲化に伴う経済的負担が軽減される(低コスト)。</p> <p>(概要)</p> <p>泌尿器科の手術患者に対して、開放手術の利点(立体視、低コスト)と腹腔鏡手術の利点(低侵襲性)を兼備し、両者の欠点を克服あるいは軽減する手術である。両者の欠点として、開放手術には大きな切開に伴う大きな侵襲(体への負担)があり、腹腔鏡手術には安全性への危惧すなわち1)ガスによる肺梗塞など循環器・呼吸器系へのリスク、2)腹腔内操作による腸閉塞等のリスク、3)立体視の欠如による誤認のリスク、および4)小さな孔(トロカーポート)を通る高価な使い捨て器具のための高コストがある。本術式は、小切開創(ミニマム創)から内視鏡を用い、ガスを使わず、腹腔内は無傷に保ち、立体視を併用し、トロカーポートを用いずに行なうもので、安全性、低侵襲性及び経済性に優れている。</p> <p>(効果)</p> <p>安全に低コストで泌尿生殖器腫瘍の低侵襲手術を行うことができる。尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、精巣癌の転移性後腹膜リンパ節腫瘍、泌尿器癌の転移性骨盤リンパ節腫瘍、水腎症などにおいて、術後1-2日以内に歩行、食事が可能となり、術後の疼痛も軽微で、短期日で退院が可能となる。</p> <p>(先進医療に係る費用)</p> <p>約 64,000 円</p>	
実施科	
泌尿器科	

先進技術としての適格性

先進医療 の名称	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術
適応症	A. 妥当である。 B. 妥当でない。(理由及び修正案:水腎症を除く)
有効性	A. 従来 of 技術を用いるよりも大幅に有効。 B. 従来 of 技術を用いるよりもやや有効。 C. 従来 of 技術を用いるのと同程度、又は劣る。
安全性	A. 問題なし。(ほとんど副作用、合併症なし) B. あまり問題なし。(軽い副作用、合併症あり) C. 問題あり(重い副作用、合併症が発生することあり)
技術的 成熟度	A. 当該分野を専門とし経験を積んだ医師又は医師の指導下であれば行える。 B. 当該分野を専門とし数多く経験を積んだ医師又は医師の指導下であれば行える。 C. 当該分野を専門とし、かなりの経験を積んだ医師を中心とした診療体制をとっていないと行えない。
社会的妥当 性 (社会的倫理 的問題等)	A. 倫理的問題等はない。 B. 倫理的問題等がある。
現時点での 普及性	A. 罹患率、有病率から勘案して、かなり普及している。 B. 罹患率、有病率から勘案して、ある程度普及している。 C. 罹患率、有病率から勘案して、普及していない。
効率性	既に保険導入されている医療技術に比較して、 A. 大幅に効率的。 B. やや効率的。 C. 効率性は同程度又は劣る。
将来の保険 収載の必要 性	A. 将来的に保険収載を行うことが妥当。 B. 将来的に保険収載を行うべきでない。
総 評	総合判定: <input checked="" type="checkbox"/> 適 ・ 否 コメント: 水腎症を適応症より除外すれば、妥当と考える。

備考 この用紙は、日本工業規格 A 列 4 番とすること。医療機関名は記入しないこと。

当該技術の医療機関の要件(案)

先進医療名及び適応症： 内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	<input checked="" type="checkbox"/> (泌尿器科) ・ 不要
資格	<input checked="" type="checkbox"/> (泌尿器科学会専門医) ・ 不要
当該診療科の経験年数	<input checked="" type="checkbox"/> (5)年以上 ・ 不要
当該技術の経験年数	<input checked="" type="checkbox"/> (1)年以上 ・ 不要
当該技術の経験症例数 注1)	実施者[術者]として(3)例以上・ 不要 [それに加え、助手又は術者として()例以上 ・ 不要]
その他(上記以外の要件)	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 不要 具体的内容： 泌尿器科常勤医1名以上。
他診療科の医師数 注2)	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 不要 具体的内容： 麻酔科1名以上。
看護配置	<input checked="" type="checkbox"/> (対1看護以上) ・ 不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	要() ・ <input type="checkbox"/> 不要
病床数	<input checked="" type="checkbox"/> (1床以上) ・ 不要
診療科	<input checked="" type="checkbox"/> (泌尿器科、麻酔科) ・ 不要
当直体制	<input checked="" type="checkbox"/> (泌尿器科) ・ 不要
緊急手術の実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 不要
院内検査(24時間実施体制)	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 不要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	要 ・ <input type="checkbox"/> 不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 不要
倫理委員会による審査体制	要 ・ <input type="checkbox"/> 不要 審議開催の条件：
医療安全管理委員会の設置	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 不要
医療機関としての当該技術の実施症例数	<input checked="" type="checkbox"/> (3症例以上) ・ 不要
その他(上記以外の要件、例；遺伝カウンセリングの実施体制が必要等)	
III. その他の要件	
頻回の実績報告	要 (症例まで又は 月間は、毎月報告) ・ <input type="checkbox"/> 不要
その他(上記以外の要件)	

注1) 当該技術の経験症例数について、実施者[術者]としての経験症例を求める場合には、「実施者[術者]として()例以上・不要」の欄に記載すること。

注2) 医師の資格(学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の△科医師が□名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

先進医療の新規届出技術(12月受付分)について

整理 番号	先進医療名	適応症	先進医療費用※ (自己負担)	保険外併用療養費※ (保険給付)	受付日
105	子宮頸癌検出のための液状処理細胞診 (LBC)	子宮腔部びらん、子宮頸部異形成、子宮頸癌 (扁平上皮癌、腺癌)	2千円	1万7千円	H19.12.6

※ 届出医療機関における典型的な症例に要した費用

先進医療の保険導入等について

先 - 3
20. 1. 9

1 「優先的に保険導入が適切である」と評価された技術

告示番号	先進医療技術名	適用開始日	備考
A1 2	自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術（PPH）（直腸粘膜脱又は内痔核に係るものに限る。）	平17. 11. 1	
A2 5	強度変調放射線治療（限局性の固形悪性腫瘍に係るものに限る。）	平18. 5. 1	
A3 7	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術（泌尿生殖器腫瘍（腎腫瘍、前立腺癌又は副腎腫瘍）に係るものに限る。）	平18. 8. 1	
A4 8	画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術（慢性副鼻腔炎、副鼻腔のう胞又は鼻副鼻腔良性腫瘍に係るものに限る。）	平18. 9. 1	
A5 9	顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術（顔面骨又は頭蓋骨の先天奇形に係るものに限る。）	昭60. 11. 1	
A6 12	培養細胞による先天性代謝異常診断（胎児又は新生児に係るものに限る。）	昭61. 12. 1	
A7 18	実物大臓器立体モデルによる手術計画（頭蓋顎顔面領域の骨変形、欠損若しくは骨折又は骨盤、四肢骨若しくは脊椎の骨格に変形を伴う疾患に係るものに限る。）	平5. 11. 1	
A8 19	歯周組織再生誘導法（歯周疾患による根分岐部病変又は垂直性骨欠損に係るものに限る。）	平6. 7. 1	
A9 20	接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定（少数歯欠損又は動揺歯に係るものに限る。）	平7. 2. 1	

A10	28	焦点式高エネルギー超音波療法（前立腺肥大症に係るものに限る。）	平9. 11. 1	
A11	29	レーザー応用による齶蝕除去・スケーリングの無痛療法（齶蝕症又は歯周疾患による歯石沈着症に係るものに限る。）	平9. 11. 1	
A12	36	S D I 法による抗がん剤感受性試験	平11. 6. 1	36, 41, 76を一つにまとめる。
A13	37	栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	平11. 7. 1	
A14	38	家族性アミロイドーシスのDNA診断	平11. 7. 1	
A15	41	抗がん剤感受性試験（進行胃がん、大腸がん、食道がん、頭頸部進行がん、進行乳がん、消化器がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸・体がん又は卵巣がん（胸水又は腹水例を含む。）に係るものに限る。）	平12. 3. 1	36, 41, 76を一つにまとめる。
A16	43	不整脈疾患における遺伝子診断（先天性QT延長症候群に係るものに限る。）	平12. 3. 1	
A17	45	画像支援ナビゲーション手術（頭頸部若しくは脊髄の腫瘍、血管病変又は脊椎病変に係るものに限る。）	平12. 10. 1	
A18	49	生体部分肺移植術（原発性肺高血圧症、特発性間質性肺炎、気管支拡張症、肺リンパ脈管筋腫症、閉塞性細気管支炎、間質性肺炎、のう胞性肺繊維症又は肺のう胞症に係るものに限る。）	平15. 2. 1	
A19	58	脊髄性筋萎縮症のDNA診断	平15. 11. 1	
A20	76	抗がん剤感受性試験（CD-DST法）（消化器がん、乳がん、肺がん又はがん性胸・腹膜炎に係るものに限る。）	平16. 11. 1	36, 41, 76を一つにまとめる。

A21	79	中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	平16. 12. 1	
A22	89	グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断（ラスマッセン脳炎、小児の慢性進行性持続性部分てんかん又はオプソクローヌス・ミオクローヌス症候群に係るものに限る。）	平17. 9. 1	
A23	94	超音波骨折治療法（四肢の骨折（治療のために手術中に行われるものを除く。）のうち、観血的手術を実施した場合に限る。）	平18. 11. 1	
A24	95	眼底三次元画像解析（黄斑円孔、黄斑前膜、加齢黄斑変性、糖尿病黄斑症、網膜剥離又は緑内障に係るものに限る。）	平19. 1. 1	

注) なお、上記技術の中には、評価結果に基づき疾患等を限定するものがある。

2 「継続が適切である」と評価された技術

	告示 番号	先進医療技術名	適用開始日	備考
B1	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術（子宮腺筋症に係るものに限る。）	平17. 10. 1	
B2	3	画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術（前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷に係るものに限る。）	平17. 12. 1	
B3	4	凍結保存同種組織を用いた外科治療（心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。）	平18. 1. 1	
B4	6	胎児心超音波検査（産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。）	平18. 6. 1	
B5	10	インプラント義歯（顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。）	昭60. 11. 1	学会において2年以内に指針策定ができなければ廃止し、策定できれば保険導入を検討する。
B6	11	顎顔面補綴（腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。）	昭61. 10. 1	施設基準を見直し、2年後までに症例が増えなければ廃止する。
B7	13	顎関節症の補綴学的治療（顎関節症（顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。）に係るものに限る。）	昭62. 3. 1	学会において2年以内に指針策定ができなければ廃止し、できれば更なる普及状況を見て保険導入を検討する。
B8	15	経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法（神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。）	平4. 11. 1	2年後までに症例が増えなければ廃止する。
B9	16	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	平5. 5. 1	新規医療材料が薬事承認された事を踏まえ、2年後までに症例が増えなければ廃止する。

B10	21	光学印象採得による陶材歯冠修復法（歯冠部齲蝕の修復に係るものに限る。）	平7. 7. 1	う蝕歯の窩洞の形状により修復物の精度が異なるため、2年後までに適応症の精査と効果の再検証をし、保険導入か廃止する。
B11	23	経皮的レーザー椎間板切除術（内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。）	平8. 7. 1	2年後までの実施状況を検討の上、疾患限定や施設基準を決めて保険適用の方向
B12	25	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定（白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。）	平8. 12. 1	2年後までに症例が増えなければ廃止する。
B13	26	スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法（手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。）	平9. 7. 1	2年後までに症例が増えなければ廃止する。
B14	32	肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	平10. 2. 1	2年後までに症例が増えなければ廃止する。
B15	33	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断（アンチトロンビン欠乏症、第VII因子欠乏症、先天性アンチトロンビンIII欠乏症、先天性ヘパリンコファクターII欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。）	平10. 10. 1	
B16	35	筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	平11. 6. 1	
B17	39	三次元形状解析による顔面の形態的診断（頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。）	平11. 9. 1	
B18	42	子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断（子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。）	平12. 3. 1	
B19	44	腹腔鏡下肝切除術（肝腫瘍（肝部分切除又は肝外側区域切除の適応となる症例）に係るものに限る。）	平12. 7. 1	
B20	46	悪性腫瘍に対する粒子線治療（固形がんに係るものに限る。）	平13. 7. 1	

B21	47	エキシマレーザーによる治療的角膜切除術（角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。）	平13. 3. 1	
B22	48	成長障害のDNA診断（特発性低身長症に係るものに限る。）	平13. 3. 1	
B23	51	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術（内視鏡的治療及び薬物治療抵抗性の食道・胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。）	平15. 4. 1	
B24	52	乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術（主に乳房温存手術が可能なステージI又はステージIIの乳がんに係るものに限る。）	平15. 4. 1	
B25	53	声帯内自家側頭筋膜移植術（一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。）	平15. 7. 1	
B26	54	骨髄細胞移植による血管新生療法（閉塞性動脈硬化症又はバージャー病（従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類III度又は同分類IV度のものに限る。）に係るものに限る。）	平15. 7. 1	
B27	55	ミトコンドリア病のDNA診断（高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。）	平15. 9. 1	
B28	56	鏡視下肩峰下腔徐圧術（透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。）	平15. 9. 1	
B29	57	神経変性疾患のDNA診断（ハンテントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。）	平15. 9. 1	
B30	59	難治性眼疾患に対する羊膜移植術（再発翼状片、角膜上皮欠損（角膜移植によるものを含む。）、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒着（スティーブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷癒着期その他の重症の癒着性角結膜疾患を含む。）、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。）	平15. 11. 1	羊膜移植に対するガイドラインを早期に作成した上で継続する必要がある。
B31	60	固形がんに対する重粒子線治療	平15. 11. 1	

B32	61	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術（原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。）	平16.	1.	1	
B33	62	31燐-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断（糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。）	平16.	8.	1	
B34	65	固形腫瘍（神経芽腫）のRNA診断	平16.	8.	1	
B35	66	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療（腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛（保存治療に抵抗性のものに限る。）に係るものに限る。）	平16.	8.	1	
B36	67	重症BCG副反応症例における遺伝子診断（BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。）	平16.	8.	1	
B37	68	自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	平16.	11.	1	
B38	69	膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術（インスリノーマ、脾動脈瘤、粘液性のう胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。）	平16.	11.	1	
B39	70	低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断（マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。）	平16.	11.	1	
B40	71	悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	平16.	11.	1	
B41	73	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断（急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。）	平16.	11.	1	
B42	74	エキシマレーザー冠動脈形成術	平16.	11.	1	

B43	75	活性化Tリンパ球移入療法（原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。）	平16. 11. 1	
B44	77	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	平16. 12. 1	
B45	78	膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術（膀胱尿管逆流症（国際分類グレードVの高度逆流症を除く。）に係るものに限る。）	平16. 12. 1	
B46	80	三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	平16. 12. 1	
B47	81	泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術（泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。）	平17. 2. 1	
B48	82	HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	平17. 2. 1	
B49	83	頰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	平17. 2. 1	
B50	85	ケラチン病の遺伝子診断（水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。）	平17. 4. 1	
B51	86	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	平17. 4. 1	
B52	87	末梢血幹細胞による血管再生治療（慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病（重篤な虚血性心疾患又は脳血管障害を有するものを除く。）に係るものに限る。）	平17. 6. 1	
B53	88	末梢血単核球移植による血管再生治療（慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病（従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。）に係るものに限る。）	平17. 6. 1	

B54	91	一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術（双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例（妊娠十六週から二十六週に限る。）に係るものに限る。）	平17.	9.	1
B55	92	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法（肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。）	平18.	10.	1
B56	93	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断（ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。）	平18.	11.	1
B57	A10	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法（腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍（食道がん、胃がん又は大腸がん）、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がんに係るものに限る。）	平17.	2.	1
B58	A17	自己腫瘍（組織）を用いた活性化自己リンパ球移入療法（がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。）	平10.	2.	1
B59	A18	自己腫瘍（組織）及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法（がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。）	平8.	11.	1

3 「削除が適切である」と評価された技術

	告示 番号	先進医療技術名	適用開始日	備考
C1	14	溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法（先天性溶血性貧血に係るものに限る。）	平3. 4. 1	
C2	17	人工中耳（慢性中耳炎その他の原因による難聴に係るものに限る。）	平5. 5. 1	
C3	22	性腺機能不全の早期診断法（小陰茎、停留睾丸、尿道下裂、半陰陽、原発性無月経、生理不順、多毛又は性染色体異常に係るものに限る。）	平7. 12. 1	
C4	24	エックス線透視下非観血的唾石摘出術（唾石症（唾石と導管壁との癒着がないものに限る。）に係るものに限る。）	平8. 8. 1	
C5	27	血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断（血小板無力症又はベルナル・スーリエ症候群に係るものに限る。）	平9. 9. 1	
C6	30	オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術（腰椎椎間板ヘルニア（髄核が完全脱出でないヘルニアに限る。）に係るものに限る。）	平10. 1. 1	
C7	31	顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術（顎関節脱臼又は顎関節内障のうち円板を中心とした顎関節内部の軟組織に異常を伴うものに限る。）	平10. 1. 1	
C8	34	顎関節脱臼内視鏡下手術（習慣性顎関節脱臼に係るものに限る。）	平11. 1. 1	
C9	40	マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断（トランスサイレチン異常による家族性アミロイドーシスに係るものに限る。）	平11. 9. 1	
C10	50	耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	平15. 2. 1	

C11	63	特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	平16. 8. 1	
C12	64	遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	平16. 8. 1	
C13	72	高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断（基底細胞母斑症候群又はカウデン病に係るものに限る。）	平16. 11. 1	
C14	84	活性化血小板の検出（急性期若しくは慢性期の脳梗塞、睡眠時無呼吸症候群又は心筋梗塞その他の動脈血栓症に係るものに限る。）	平17. 4. 1	
C15	90	腹腔鏡下広汎子宮全摘出術（早期子宮頸がん（臨床進行期Ibまでのものに限る。）に係るものに限る。）	平17. 9. 1	

先進医療の保険導入等について

1. 現状

先進医療については、国民の安全性を確保し、患者負担の増大を防止するとともに、国民の選択肢を拡げ、利便性を向上するという観点から、保険診療との併用を認めることとしている。

また、先進医療については、将来的な保険導入のための評価を行うものとして、保険診療との併用を認めたものであり、実施している保険医療機関から定期的に報告を求めることとしている。

2. 保険導入案

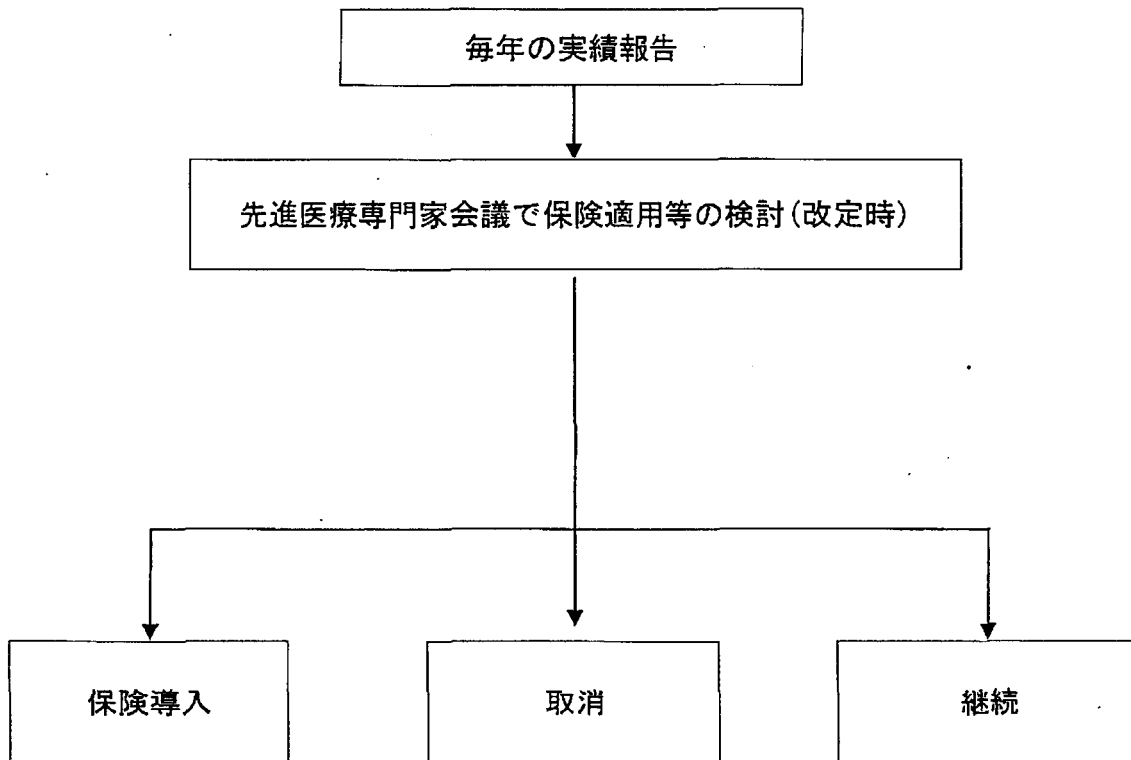
- 先進医療の保険導入等は診療報酬改定に際し、実績報告等に基づき評価を行うこととする。
- 先進医療を保険導入するにあたって考慮すべき事項は、「有効性」、「安全性」、「技術的成熟度」、「社会的妥当性」、「普及性」、「効率性」等とする。
- 先進医療の保険導入等に関する評価については、別紙の通りとする。

3. 評価の対象技術の範囲

評価の対象技術は、すでに先進医療となっている技術（平成 19 年度における実績報告の対象となった技術）とする。ただし、薬事法上未承認又は適応外使用に該当する医薬品及び医療機器を含む技術（平成 20 年 3 月末までの時限的先進医療技術）を除いた技術とする。

(参考)

○ 保険適用までの流れ



なお中医協において、先進医療専門家会議の報告内容を審議し、
保険導入する技術を決定する。

